

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成31年1月31日現在

今月の重点活動

■島園芸振興会 家族経営協定調印式開催

1月18日、JAぎふ島支店において、島地区を中心に、主にえだまめ、ほうれんそう、だいこんなどを栽培している6世帯の家族経営協定調印式が行われた。

岐阜農林事務所長、JAぎふ代表理事組合長、岐阜市農林部長、岐阜市農業委員会長、岐阜市農地利用最適化推進委員が立会人となり、協定書に調印をした。本協定をきっかけに、それぞれの家族は各自の役割や働き方を明確にし、経営計画や生活設計の樹立を目指していく。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、家族経営協定の推進を図ると共に、各世帯の農業経営改善や産地の発展につながるよう支援していく。
(園芸産地支援第一係・川部 知)



【調印式の様子】

新たなブランドづくり

■羽島市学校給食 「地産地消会議」開催

1月17日、羽島市南部給食センターにおいて、羽島市、学校給食調理師、JAぎふ、卸売市場、農業普及課担当者が出席し、地産地消会議が開催された。

本年度給食の献立実績とともに、7月と1月に羽島市産アスパラガス、十六ササゲ、ブロッコリーを使用した事例が報告された後、来年度の提供可能品目について検討した。

農業普及課からは、給食への食材提供が期待されている羽島市園芸振興会各生産部会の現状について説明し、今後の方向性等について助言しており、学校給食を通じた地産地消の推進に向け、今後も支援を継続する。
(地域支援第二係・野口裕史)



【会議の様子】

売れるブランドづくり

■水稲 多収性品種栽培研修会開催

1月25日、JAぎふアグリパークにおいて、平成31年産水稲(ほしじりし・にじのきらめき)栽培研修会が開催され、当該2品種の栽培を予定する水田農業担い手、JAぎふ、JA全農岐阜、農業普及課の担当者、40名が参加した。

農業普及課から、「ほしじりし」「にじのきらめき」の品種特性と平成30年産実証ほの調査結果、平成31年産栽培暦について説明し、参加した生産者からは質問が多く出され、多収性品種に対する積極的な取り組み姿勢が感じられた。

今後は、平成31年産実証ほの調査を行うとともに、業務用水稲品種の構成について検討するなかで、水稲の安定多収生産と低コスト化を目指した取り組みを支援する。

(地域支援第一係・小島康平)



【研修会の様子】

■水稲 不耕起V溝直播栽培講習会開催

1月23日、JAぎふ北方支店において、本県地域の担い手等を対象に、不耕起V溝直播栽培の講習会が開催された。この技術は、比較的時間に余裕のある冬季に代かきを行い、5月上旬頃までに直播することにより、作業分散及び省力化が図れることが特徴である。

農業普及課から、V溝直播栽培のポイントについて説明して理解を得て、今年は4経営体がV溝播種機を新規購入し、作付を開始することとなり、今後は栽培技術習得について支援していく。

(地域支援第三係・飯沼清敏)



【講習会の様子】

■祝だいこん 反省会開催

1月15日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの反省会が開催され、生産者など約50名が参加した。

今年は、播種期以降、台風等が無い好天に恵まれ、温暖化傾向で推移したため、例年より長さ、太さとも大きくなるなか、曲がりや首汚れ等は少なく品質も良く、出荷歩留まり79.8%となった。

昨年12月の目揃会において、出荷規格を遵守するよう徹底してきたが、規格外品の混入や選果選別の個人格差が今年産も散見されたため、農業普及課から、今年産の生産・出荷等における課題と対応策等について情報提供を行った。



【反省会の様子】

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)

■えだまめ 栽培研修会開催

1月15日から28日にかけて、JAぎふ島、合渡、則武支店において、JAぎふえだまめ部会員を対象に栽培研修会が開催され、生産者など約160名が参加した。

農業普及課から、2019年産に向けた栽培管理ポイントや、GAPの普及推進に向け、自己点検や内部点検結果を踏まえた改善ポイントについて説明した。また、JAからは、部会管理規則等の変更点や記録様式の記載方法の説明があり、自己点検を実施した。

農業普及課では、今後も高品質安定生産に向けた栽培支援、GAPの実践による持続可能な産地づくりに向けた支援を継続していく予定である。



【栽培研修会の様子】

(園芸産地支援第一係・川部 知)

■かき 次年度に向けた産地の取り組み支援

管内の各産地において、次年度に向けた剪定講習会や反省会等を開催する時期を迎え、岐阜市かき共販振興会、マル糸柿振興会が、推進品種「早秋」「太秋」の生産者対象の剪定講習会をそれぞれ開催し、瑞穂市柿振興会は1月19日に、全体反省会（暦説明会）及び初心者を対象とした剪定基礎学習会を開催している。

また、岐阜市かき共販振興会では、整枝剪定の個別指導を希望する会員約30名に対し、JAぎふTAC（営農指導員）と連携し、個別に技術向上に向けた徹底指導を行っており、産地の技術継承と生産力の向上を図っている。

平成30年度は、異常干ばつや台風など気象災害に悩まされた年であったが、次年度の高品質な柿生産に向け、各産地が新たな気持ちで生産に取り組めるよう、農業普及課は支援していく。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)



【剪定講習会の様子】

住みよい農村づくり

■いちご 岐阜市産いちごのPR試食会実施

1月13日、岐阜市内のマーサ21において、JAぎふ岐阜市いちご部会青年部が、岐阜市産いちご「濃姫・美濃娘・華かがり」のPR試食会を実施した。試食会は、来店したお客様に3品種1粒ずつ試食してもらい、どれが好みかを問う方式で行われた。

試食した約800人のうち、「濃姫」を好む消費者が41%と一番多く、「華かがり」も25%の方が好みと答えていた。

今回は、青年部が3名参加し、お客様から求められた品種の説明や、購入時の美味しいいちごのパック選定方法などにも丁寧に対応していた。

今回で当PR試食会は終了となるが、農業普及課では関係機関と連携し、今後も岐阜いちごのPR活動を支援していく。



【いちご試食会の様子】

(園芸産地支援第一係・三和浩一)